第 703 回
日本小児科学会東京都地方会講話会
プログラム

日　　時：　2025年1月11日(土) 午後2時00分

開催会場：　アットビジネスセンター八重洲 501 号室

＊2024 年度より会場開催のみとなります。

＊講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備　考
1,000 円	小児科領域講習 1 単位（iii 貼付用） 学術集会参加単位（iv -B 貼付用）	＊単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要（60 分）

【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8　八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会　長：水野　克己（昭和大学医学部小児科主任教授）

主幹校：昭和大学医学部小児科　担当：阿部　祥英

連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：https://jpeds-tokyo.com/

第703回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

（1題6分、追加討論3分以内厳守のこと）
≪プログラム係　順天堂大学　東海林　宏道≫

一般演題（1）14：00－14：30　座長　山﨑　晋（順天堂大学医学部附属練馬病院　新生児科）

1）明らかな消化器症状を認めず低アルブミン血症を契機に発見された好酸球性胃腸炎の1例

○山城　一輝、杉本　龍之介、伊藤　環、冠城　祥子、鳴海　覚志
（慶應義塾大学小児科学教室）

1歳6か月男児。浮腫を主訴に来院し、アルブミン2.4 g/dLと低アルブミン血症を呈したものの下痢、タンパク尿ともになく、低栄養を疑った。しかし、末梢血好酸球数増多を契機に好酸球性胃腸炎（EGE）を疑い、消化管内視鏡検査で確定診断した。α1アンチトリプシンクリアランスは増加しており、蛋白漏出性胃腸症を合併していた。消化器症状の明らかでないEGEが低アルブミン血症の原因となることがある。

2）川崎病関連関節炎の経験と治療方針

○杉村　長洋[1)]、伊良部　仁[2)]、金田　朋也[2)]、阿久津　裕子[2)]、林　祐子[2)]、清水　正樹[2)]、髙木　正稔[2)]
（[1)] 東京科学大学病院　総合教育研修センター、[2)] 同　小児科）

8歳男児。前医で重症川崎病と診断され、第5病日に免疫グロブリン、ステロイド、アスピリンで治療された。発症第26病日に両股関節炎・膝関節炎を合併し、精査加療目的に当科へ紹介された。冠動脈病変はなく、非ステロイド性抗炎症薬による治療で症状および炎症反応の経時的改善が得られた。川崎病患者の2.0-7.5%に関節炎を合併するが、明確な治療指針はない。当院の川崎病関連関節炎の経験も交えて報告する。

3）インスリン過量投与を繰り返していた1型糖尿病の1例

○小林　ほのか、寺田　啓輝、田邊　聡美、峯　佑介、青木　政子、鈴木　潤一、森岡　一朗
（日本大学医学部小児科）

9歳男児。1型糖尿病の診断で持続インスリン注入療法を行っていた。インスリンポンプ操作は習得できており、血糖管理は良好であった。授業中に低血糖を繰り返すようになり、母がインスリン注入履歴を確認したところ、授業を休むために児が故意にインスリン過量投与していることが判明した。1型糖尿病の学童期では疾病理解の不十分さや、心理社会的問題の頻度が高く、適切な対応と支援が必要である。

一般演題（2）14：30－15：10　座長　吉田　登（江東病院　小児科）

4）卵巣嚢腫の摘出を行った早産児卵巣過剰刺激症候群の2例

○ HUANG YI DA[1)]、遠山　雄大[1)]、井神　健太[1)]、武藤　大和[1)]、山田　啓迪[1)]、澁谷　聡一[2)]
松井　こと子[1)]、池野　充[1)]、菅沼　広樹[1)]、宮野　剛[2)]、東海林　宏道[1)]
（[1)] 順天堂大学医学部附属順天堂医院　小児科・思春期科、[2)] 同　小児外科・小児泌尿生殖器外科）

早産児卵巣過剰刺激症候群は在胎32週未満で出生した女児にみられるまれな疾患で、性ホルモン過剰分泌により外陰部腫脹や卵巣嚢腫が出現するが、自然軽快することが多い。当施設で外科手術を要した2症例を経験したので報告する。外陰部腫脹に加えて症例1は両側卵巣嚢腫、症例2は片側嚢腫を認め、腹腔鏡下手術を実施した。早産児に外陰部腫大を認めた際は本症候群を考慮した精査が必要である。

５）エンテロウイルス D68 が検出された無気肺を伴う重症呼吸不全の１乳児例

○南　早織、笹本　武明、村上　美佐子、堀　佳那江、鈴木　崇、羽生　直史、大野　幸子、赤松　信子
山崎　崇志、柏木　保代、山中　岳

（東京医科大学 小児科・思春期科学分野）

1 か月乳児。咳嗽出現から半日経たずして口唇チアノーゼを呈し、活気不良のため救急搬送された。右上葉無気肺を伴う重症呼吸不全に対し人工呼吸器管理を試みるも、治療反応に乏しく呼吸性アシドーシスが遷延した。最終的に 1 時間の用手換気と、呼気終末陽圧を高く設定し改善した。後日、鼻腔・便からエンテロウイルス D68 が検出された。乳児における換気不良持続時の背景因子と治療について文献を交えて考察する。

６）新規発症持続性連日性頭痛を COVID-19 罹患後に発症し 6 か月で寛解した１例

○齋藤　匠[1)]、前川　貴伸[2)]、益田　博司[2)]、飯島　弘之[2)]、永井　章[2)]、窪田　満[2)]、石黒　精[1)]

（[1)] 国立成育医療研究センター　教育研修センター、[2)] 同　総合診療部）

11 歳男児。COVID-19 罹患 3 週後に頭痛を発症し、数日で 1 日中持続する強い頭痛になった。さらに全身痛を伴い、日常生活が困難になり入院した。頭部 MRI、脳波、髄液検査を含む精査で異常を認めなかった。新規発症持続性連日性頭痛と診断したが、1 か月の入院治療でほぼ改善なく外来通院に移行した。退院 3 か月後、急に頭痛が軽減し、6 か月の経過で寛解した。患者、家族の振り返りを含めて報告する。

７）副鼻腔から波及した硬膜下膿瘍と診断し、副鼻腔・穿頭ドレナージ術を必要とした１例

○中村　怜[1)]、柏木　項介[2)]、鈴木　絵美子[2)]、日比生　武蔵[2)]、野村　望[2)]、宮野　洋希[2)]
宮田　恵理[2)]、五十嵐　鮎子[2)]、鈴木　恭子[2)]、大友　義之[2)]

（[1)] 順天堂大学医学部附属練馬病院　臨床研修センター、[2)] 同　小児科）

13 歳男子。発熱、頭痛、髄膜刺激徴候を認め、髄膜炎の診断で入院した。原因精査のために施行した頭部 MRI 検査で副鼻腔炎とそれに連続する硬膜下膿瘍があり、抗菌薬投与と第 15 病日に副鼻腔ドレナージ術を施行した。しかし、膿瘍が増大し、第 26 病日に穿頭ドレナージ術を施行した。以降、症状や膿瘍の再燃なく経過し、第 74 病日に退院した。硬膜下膿瘍は速やかな診断、穿頭ドレナージ術の時期を逸さないことが肝要である。

＊　＊　　休　　憩　　15：10 － 15：20　　＊　＊

感染症だより　15：20 － 15：35　（講演：15 分）

講師　森野　紗衣子（国立感染症研究所感染症疫学センター）

共催セミナー　15：35 ー 16：15　（講演：40 分）

「乳幼児の血便診療」

座長　水野　克己（昭和大学医学部小児科学講座）
講師　新井　勝大（国立成育医療研究センター消化器科 / 小児 IBD センター）

血便を主訴に病院を受診する乳幼児は少なくないが、その鑑別疾患は多岐にわたる。裂肛や若年性ポリープ、メッケル憩室などからの出血に加え、近年では、炎症性腸疾患や好酸球性消化管疾患の診断に至る症例も少なくない。しかしながら、多くの小児科医にとって出血源を想像し、適切な診断と治療につなげることは容易ではなく、本講演では、効果的な診断のためのステップと疾患管理について概説する。

共催：ミヤリサン製薬株式会社

＊　＊　　休　　憩　　16：15 ー 16：25　　＊　＊

教育講演　16：25 ー 17：30　（講演：60 分 + 質疑応答：5 分）　小児科領域講習　1 単位

「こども食堂と小児医療」

座長　水野　克己（昭和大学医学部小児科学講座）
講師　湯浅　誠（認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事長）

こども食堂は 8 割が参加条件なしで運営されており、地域の多世代交流拠点として機能している。近年、このような地域の居場所が増え、こども食堂は全国の中学校数と並ぶまでにいたった。今、なぜ、このような場所が求められているのか、その社会的背景や、そのような交流の場が持つ支援機能などを理解し、小児医療とこども食堂の連携を探る。

演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】https://jpeds-tokyo.com/

◆　2024 年度講話会及び年間行事予定　◆

■　講話会予定

講話会	日　程	会　場	備　考
第 704 回	2025 年 2 月 8 日（土）	アットビジネスセンター八重洲通 （会場開催のみ）	※第 2 回幹事会
第 705 回	2025 年 3 月 8 日（土）		※演題締切 2025 年 1 月 20 日

＊4，5，8，11 月は休会

■　小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support：JPLS）を年間 4 回開催します。
取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位　iii 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会　場	申込開始時期
2025 年 2 月 1 日（土）	国立成育医療研究センター	満員御礼
2025 年 2 月 2 日（日）	国立成育医療研究センター	

申し込み先：日本小児科学会 HP
https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

◆　会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ　◆

【2024 年会費納入について】
2024 年度より年会費が 8,000 円となりました。
年会費納入のお知らせを 2024 年 4 月 1 日にメールおよびホームページにてご案内しております。
2024 年度会費未納の方は 2025 年 3 月末日までに【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。
3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。
＊会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

【年会費免除申請について】
学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。
学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】
東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認お願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

【主幹校（会長校）】昭和大学医学部小児科
【運営事務局】日本大学医学部小児科
【主幹校／運営事務局　共通アドレス】
✉　jpstokyo-office@umin.ac.jp

【東京都地方会 HP】
https://jpeds-tokyo.com/